

氏名	平 本 孔 彦
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第2953号
学位授与の日付	平成7年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	大腸癌の再発転移から見た神経接着分子NCAMとDCC癌抑制遺伝子との関連性および肝転移と遊離型ICAM-1との関係についての検討
論文審査委員	教授 清水 信義 教授 清水 憲二 教授 辻 孝夫

学位論文内容の要旨

大腸癌の予後規定に再発形式の予測は重要である。直腸癌の神経浸潤と強いかかわりのある神経接着分子NCAMと高いホモロジーを有するDCC 癌抑制遺伝子との関連性について検討した。また、大腸癌肝転移と血清中遊離ICAM-1との関係について併せて検討した。大腸癌全体でNCAMは128例中52例、41%の陽性を認め、組織学的進行度との間に相関はなかった。直腸癌の神経浸潤は臨床病理学的各因子との間に相関はなかったがNCAMとは有意な相関を認めた。NCAM発現とDCC遺伝子とは有意な相関はなかったが、NCAM陰性DCC decreased 症例に肝転移が多く、NCAM強陽性DCC not decreased 症例に局所再発が多かった。DCC遺伝子変異とリンパ節転移とに有意な相関を認めた。血清中遊離ICAM-1値が700ng/mlを越えるものに肝転移が多かった。術後治療法選択に組織のNCAM発現や血清中遊離ICAM-1が重要な指標になることが示唆された。

論文審査結果の要旨

大腸癌の再発形式の予測は重要であり、著者は直腸癌の神経浸潤と関連の強い神経接着因子NCAMと高いホモロジーを有するDCC癌抑制遺伝子との関連性について検討した。

また、大腸癌肝転移と血清中ICAM-1との関連についても併せて研究した。大腸癌全体でNCAMは128例中52例、41%の陽性を認めたが、組織学的な進行度との相関はなかった。直腸癌の神経浸潤は、NCAMと有意の相関を認めた。NCAM発現とDCC遺伝子とは有意の相関はなかったが、NCAM陰性DCC decrease症例に肝転移が多く、NCAM強陽性DCC not decrease 症例に局所再発が多かった。DCC遺伝子変異とリンパ節転移とに有意な相関を認めた。血清中ICAM-1値が高値なものに肝転移が多かった。術後の治療法選択に組織のNCAM発現や血清中遊離ICAM-1が重要な指標となることを認めた。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。